

【課題番号】 1RB-2501

【研究課題名】 ESD コンピテンシーの獲得と行動変容のための評価フレームワークの構築

【研究期間】 2025 年度（令和 7 年度）～2027 年度（令和 9 年度）

【研究代表者（所属機関）】 佐々木織恵（国立社会保障・人口問題研究所）

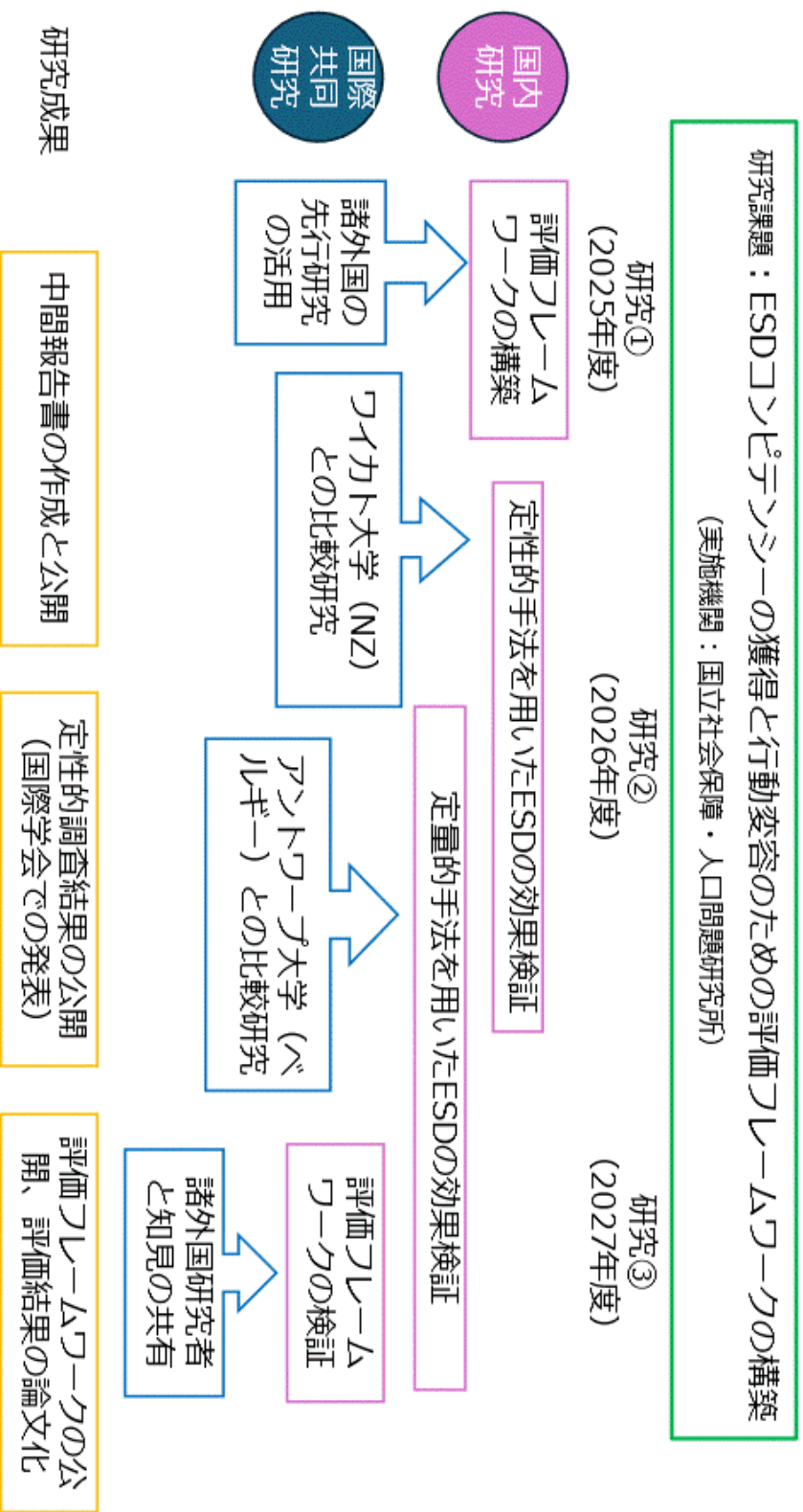
研究の全体概要

本研究の目的は、「持続可能な開発のための教育(ESD)」を通して、児童・生徒たちの行動変容(行動能力)がいかに促進されるかを明らかにすることである。ESD を通した行動能力の育みが提唱されながら、ESD の教育効果検証が十分に行われてきたとはいえない。本研究では、時系列の変化を追える評価フレームワークの整備・構築を行い、ESD の効果検証を行う。また、ESD と行動変容に関する評価研究が進んでいるニュージーランドやベルギーとの共同研究を通じて、国外での ESD の評価フレームワークが国内において応用可能か、比較検証を行う。このような横断的かつ包括的な ESD の評価研究はこれまでに国内で例がなく、本研究を通じて先進的な環境・教育政策の提言が可能となるだけでなく、評価フレームワークや評価結果の公開を通じて本研究終了後も新たな知見を得ることが期待できる。

具体的な研究計画は次のとおりである。まず、2025 年度に諸外国における研究手法を参考に、質問紙調査やテストの開発を行う。当該分野で先進的な研究を行っているドイツやベルギー、スウェーデン等の研究者からヒアリングを行い、評価手法の精緻化を目指す。さらに、ニュージーランドの研究に学びながら、行動能力の育成の過程を明らかにするため、日本の教師を対象にインタビュー調査を行う。

次に、2026 年度には、2025 年度に構築した評価フレームワークに基づき、定量的な手法を用いた ESD の効果検証を行うための質問紙やテストを用いた調査を調査対象市の全ての小中学校を対象に実施する。児童・生徒はタブレットを用いて、オンラインで回答する。さらに 2025 年度の定性的研究結果を国際学会で発表する。

最後に、2027 年度には、2026 年度に実施した調査結果の分析を行う。日本とベルギーの児童生徒の行動を測定するだけでなく、筆者がこれまで行ってきた学校・教師の実践データ（質問紙調査のデータおよびインタビュー調査のデータ）と、質問紙・テストのデータを結びつけ、定量的に両者の関連を明らかにし、査読付き論文として成果を公表する。さらに諸外国の研究者との意見交換を通して、構築した評価フレームワークの妥当性や、評価結果における各国と日本との違いを検討する。作成した評価フレームワークと評価結果は公開する予定である。



研究の全体概要図